会　　議　　録

会議の名称	平成２６年度第３回弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会
開催年月日	平成２７年　３月１９日（木）
開始・終了時刻	１５時３０分　から　　１６時３０分まで
開催場所	弘前市みどりの相談所　集会室
議長等の氏名	関根達人（弘前大学人文学部教授）
出席者	金森安孝、上條信彦、柴正敏、福井敏隆
欠席者	なし
事務局職員の職氏名	（弘前市都市環境部公園緑地課）公園緑地課長兼弘前城整備活用推進室長・古川勝、同課長補佐・小嶋修造、弘前城整備活用推進室主幹・石川竜明、同室主査・岡本康嗣、同室主査・横山幸男、同室主事・今野沙貴子（記録） （弘前市教育委員会文化財課）教育部長・柴田幸博、文化財課長・三上敏彦、同課長補佐・斎藤弘之、同課文化財保護係長・鶴巻秀樹、同係主査・小石川透、同課埋蔵文化財係長・岩井浩介、同係主事・工藤麻衣、同係主事・東海林心、同係主事・吹田昴平、同係主事・福原健
会議の議題	①平成２６年度弘前城本丸発掘調査成果について ②平成２７年度弘前城本丸発掘調査について ③天守台平場現況について
会議結果	① 天守台北側調査区の南半分（１～９グリッド）においては、２ｍ以上の深さまで近代の石垣修理の手が入っている。 ② 平成２７年度には、天守台北側調査区の北半分（７～１６グリッド）の調査を重点的に行う。天守台の発掘調査は、平成２８年度の実施となる。 ③ 天守台の現況については、曳屋工事前に追加調査をすること。
会議資料の名称	① 平成２６年度第３回弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会要旨 ② 図１・２（盛土分布図①・②）、図３（平成２６年度東西方向土層断面図） ③ 平成２６年度弘前城本丸発掘調査　土質属性表 ④ 図４（天守台平場平面図）、図５（天守台平場エレベーション図） ⑤ 平成２７年度　弘前城本丸石垣修理事業に係る本丸平場発掘調査要項

会議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	① 平成２６年度弘前城本丸発掘調査成果について （事務局） ・調査区南側を中心に、最大で地表面から深さ約 250 ㎝地点まで掘削した。 ・検出したのは盛土のみで、地山は確認されていない。 ・調査区南側（１～９グリッド）に確認した盛土は、西端に堆積する盛土③以外、すべて近代以降のガラス片か、崩落したものと思われる築石を含んでいる。 ・１～４グリッドに分布を確認した「礫多量含む白色粘質土」は、近代に崩落したとされる「十間半」の石垣範囲背面にほぼ収まる。また、盛土①（礫あり）と盛土②新の組み合わせは、９グリッド内を北限として分布しており、石積みから推測した近代の石垣修理範囲内に収まるものと思われる。 ・盛土①（礫あり）の広がりを、９グリッド南側土層観察ベルト以南で確認している。９グリッド北側土層観察ベルト以北の盛土①は、礫をほとんど含まなくなる（盛土①（礫なし））。 ・盛土②古・盛土③・盛土④からは、現段階において近代以降の遺物の出土はない。 （委員会） ・盛土検出平面図は、掘削深度を単位とするのではなく、各層位上面を単位として記録し、提示すること。その方が、遺構・遺物の評価がしやすい。 ・今までは、近代以降の盛土からの出土であれば、遺物をグリッド一括で取り上げてきたが、今後は近代以降のものだとしても、各遺物の出土地点・出土層位を押さえた上で取り上げること。特に出土層位については、層の上面からの出土なのか、あるいは層中からの出土なのかを明確にすること。 ・瓦や近代以降のガラス片について、時期の検討をすること。 ② 平成２７年度弘前城本丸発掘調査について （事務局） ・平成２７年度は、天守台北側調査区の北半分（７～１６グリッド）の調査を重点的に行う。掘削深度は平成２６年度と同じく、地表面から 150～250 ㎝に収める。 ・発掘調査開始前に、本丸井戸跡の石製井戸枠を移動させる。 ・天守台の発掘調査は、平成２８年度の実施となる。

	（委員会） ・井戸枠を持ち上げる際には、柴委員に立ち会ってもらうこと。井戸枠のサンプルを採取・分析できれば、石材産地を特定できるかもしれない。 ③ 天守台平場現況について （事務局） ・天守１層目の床板をはがした状態で、天守台平場の現況図を作成した。 ・天守台は、現況で大型の石が露出している状態である。天守台北側の発掘調査では、天守台に隣接する調査区南端において、近代に崩落した築石と思われる大型石が盛土に含まれる状況を確認している。天守台の大型石は散在しており、天守の礎石を構成するとは考えにくいことから、天守台北側と同様に、近代の盛土中に混入する大型石が地表面に露出しているものと考えている。 ・天守台石垣北面に見られる築石間の隙間は、天守台平場北西部に亀裂となって続いている。 ・天守台平場には、内濠側への傾きが見られる。また、平場中央部に向かってくぼんでいる状況も確認された。 （委員会） ・天守曳屋前に、表面に露出している遺物や亀裂・窪みなど、現況の詳細な記録を取っておくこと。 ・天守台表面に敷かれている玉砂利を、柴委員に分析してもらうこと。
その他必要事項	・会議の公開、非公開…公開 ・オブザーバー…（文化庁）市原富士夫 （青森県教育委員会文化財保護課）小山隆秀 ・傍聴者数…２名（東奥日報・陸奥新報記者）